

大学の世界展開力強化事業 H28取組概要 愛媛大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービラーニング・プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

地域に立脚して一次産業を中心とした未来社会の持続的発展に貢献できる国際的なサーバント・リーダーを養成する。

【構想の概要】

日本・インドネシア6大学で構成するコンソーシアム(SUIJI)の下で両国の学士課程の学生が、一緒に1週間から3週間以上にわたり地域コミュニティに滞在して、現実の課題に取り組むサービラーニングを実践する。**修士・博士課程においては、共同(学位)プログラムを構築し、農学分野の実践的なフィールド調査・研究を行う。**

(覚書変更・締結を終えて)

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ SUIJI-JP-Ms, SUIJI-JP-Dc覚書の変更・締結

H28年9月にガジャマダ大学において開催したSUIJIセミナーにて、6大学(愛媛大学・香川大学・高知大学・ガジャマダ大学・ポゴール農業大学・ハサヌディン大学)は共同学位プログラム(JDP)から、より共同教育・研究に主眼をおいた共同プログラム(JP)への名称変更に合意し、SUIJI-JP-MsおよびSUIJI-JP-Dcの覚書の変更・締結を行った。

○ 第5回外部評価委員会を開催

外部の専門家らによる第5回外部評価委員会を開催し(H28年11月)、質の保証を伴った大学間交流の枠組形成を検証し、プログラムの改善と持続性について助言を得た。



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

(国内サービラーニング参加学生たち)



○ サービラーニング・プログラムの実施

6大学の学部学生がともに農山漁村に滞在し、現実の課題に取り組みながら学ぶサービラーニング・プログラムを四国8サイト(H28年8月)とインドネシア5サイト(H29年2月)で実施し、日・イの学生延べ約250名が参加した。

○ 大学院共同(学位)プログラムを実施

農学関連分野における共同(学位)プログラム(修士・博士課程)を実施した。インドネシアに派遣した日本人学生のうち5名に、6大学コンソーシアムからプログラムの修了証書が授与された。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

インドネシアで実施したサービラーニング・プログラム等に、日本3大学から学士課程学生計69名を派遣。共同教育プログラムでは、修士課程の学生3名を派遣した。

○ 外国人留学生の受入れ

日本で実施したサービラーニング・プログラムに、インドネシア3大学から学部学生計39名を受入。共同教育プログラムでは、インドネシア3大学から修士課程の学生10名、博士課程の学生3名を受け入れた。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	2	66	58	67	72
学生の受入	19	39	51	52	52

■ 日本人学生の派遣・インドネシア人留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣促進

派遣学生を対象として、インドネシア語講座をe-Learningの形で提供するためのコンテンツを作成し、H28年度後学期からの運用を開始した。入国ビザを円滑に取得できるよう、関係総領事館などと情報交換を図った。コンソーシアムの協定の下、派遣先では、宿舍の斡旋、生活面のサポートをインドネシア側大学が担った。

○ インドネシア人学生受入促進

インドネシア人学生の受入にあたって、宿舍の斡旋、生活面のサポートを日本側大学が担った。また、インドネシア人学生の渡航費用の一部について日本企業等から支援を得た。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

○ 事業報告書の制作およびホームページの大幅リニューアル

補助事業の成果を記録・発信するために事業報告書を制作した。また従来のホームページを大幅にリニューアルし、情報発信の強化を行った。

○ セミナーやSNSを通じた成果発信

サービラーニングの成果を発信、議論する成果発表会をポゴール農業大学にて開催した(H29年3月)。Facebook等のSNSを通じた情報共有と成果発信を随時行っている。

○ 学会や研究雑誌での報告を通じた成果の発信

事業実施を通じた成果をフィールド教育や国際交流、地域づくりをテーマとした学会および研究会で報告・発表した。